

持続可能な農業に貢献

デジタル駆使水田防除

バイエルクロップサイエンス（東京都千代田区、大島美紀社長）は、強みのソリューション提案を生かして持続可能な農業に貢献する。デジタルツールや除草剤などを駆使した水田雑草の防除に寄与するソリューションを軸とし、カーボンフットプリント（CFP）の算定や温室効果ガス（GHG）削減などで協業を拡大する。リジネラティブ（環境再生型）農業の実現を目指し、活動を加速したい考えた。（山岸渉）

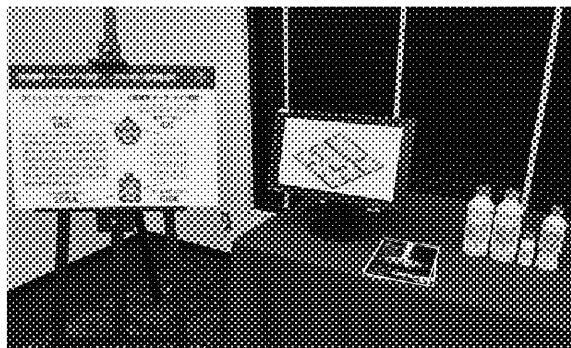
バイエルクロップ

「さまざまな取り組みを通じて共創の輪をう意味込む。広げ、生産者や消費者 軸となるのは、同社を含めたバリエーションが強みとするソリューションを拡大したい」。シオンだ。デジタルバイエルクロップサイエンスを活用し、ほ場に

適した除草剤の有効成分を適切な量やタイミングで散布できるように提案する「水田雑草テララメイト防除」を推進している。

最適な雑草防除の処方を出す同社のアプリケーション「my防除」や、個々のほ場に合わせた除草剤「単一成分剤」を生かす。テララメイト防除によってコストを最大30%、薬量は最大50%、作業負担に関しては散布時間の約50%削減を目標としている。

温室ガス削減 協業を拡大



デジタルツールを使い、ほ場に適用した除草剤の量やタイミングなどを提案する「水田雑草テララメイト防除」を推進

▲「水田雑草テララメイト防除」を推進

などで、GHG削減効果を可視化する。ゼロボード

との協業では、2023規模のほ場を有する大規模農家（グリーンカーボン、「みどりの食料システム戦略」と進める）と協業し、カーボンクレジットの創出に向けた協力がその好例だ。

はGHG排出量を約3割削減できたという。バイエルクロップサイエンスはこれまでテララメイト防除を活用し、リジネラティブ農業への貢献に

はGHG排出量を約3割削減できたという。バイエルクロップサイエンスはこれまでテララメイト防除を活用し、リジネラティブ農業への貢献に

・可視化の分野で専門的な知見を持つゼロボード（東京都港区）と通じて、製品が顧客の協業にも乗り出し、届くまでのCFP算定の導入した場合はGHG削減効果を試算した。実証で

はGHG排出量を約3割削減できたという。バイエルクロップサイエンスはこれまでテララメイト防除を活用し、リジネラティブ農業への貢献に

はGHG排出量を約3割削減できたという。バイエルクロップサイエンスはこれまでテララメイト防除を活用し、リジネラティブ農業への貢献に